

中学3年 英語科「あなたの国を世界にPRしよう」

柏市立西原中学校 名前 宇佐美 奈々恵

1. 情報活用能力育成をめざす単元づくり

(1) 単元について

最後となる Our Project8 では、3年間の集大成として自国の誇れるもの（人物、特産物、祭り、観光地など）をPRする。

これまで世界の弃当事情や海洋ごみ問題、バスケットボールやカカオの歴史など、様々なことを学んだことで、グローバルな視点を育んできた。しかし、子どもたちの中には日本の良さを十分に知らない生徒も多い。この単元では、様々な国の人々とあらゆる形で共生していくこれからの子どもたちが、自国の文化・魅力を深く理解し、それを伝える力を身に付けることをねらいとする。

(2) 身に付けたい力

- ・ICTを活用し、膨大な情報の中から、最適な情報を収集・整理する力を身に付ける。
- ・地方や地域をPRするための効果的な表現方法を考え、実践する力を身に付ける。
- ・自国が誇れる文化や特産物、豊かな自然など、自分が住んでいる国に対する関心を持ち、日本の良さを再認識する。

(3) 学習計画

学習のゴール：自国の文化・魅力を深く理解し、それを伝える力を身に付ける

	時	学習内容 ○身に付けたい力
1 課題の設定	1	・ALTの先生が日本を旅行するという話を聞いて、どのようなことをお勧めすればよいかを考える。 ・どのようなPRの仕方が効果的か話し合う。 ・提案する内容をJamboardでマッピングする。 ○地方や地域をPRするための効果的な表現方法を考える力を身に付ける。
2 情報の収集	2	・紹介する地方や地域の誇れるものには、どのようなものがあるか調べ、スプレッドシートに記入し、グループ内外で共有する。 ○ICTを活用し、膨大な情報の中から最適な情報を収集する力を身に付ける。
3 整理・分析	3	・PRのために調べた内容の中から、グループで紹介したいものの優先順位をつけ、発表する内容を精査する。
	4	・グループでPRをするための原稿を考える。スキット形式で行う、プレゼン形式で行う、インタビュー形式で行うなどの発表方法は自分たちで考える。
	5	

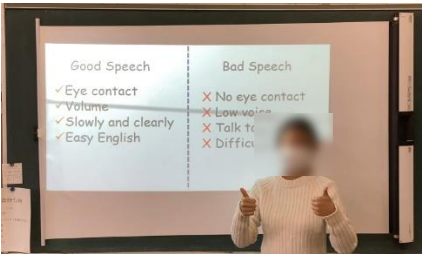
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループでPRする練習を行う。より完成度の高いPRになるようブラッシュアップする。 ○ICTを活用し、膨大な情報の中から最適な情報を整理する力を身に付ける。 	
4	まとめ・表現	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ4分間でプレゼンを行う。 ○地方や地域をPRするための効果的な表現方法を考え、実践する力を身に付ける。
5	振り返り改善	7	<ul style="list-style-type: none"> ・どのグループが1番魅力的だったかFormsで投票を行う。 ・他のグループにコメント機能を使って、改善策や良い点などを伝える。 ・またこのプログラムを通して、自分の成長を振り返る。


2. 本時について (本時6/7時間)

(1) 本時の目標

- ・地方や地域をPRするための効果的な表現方法を考え、実践する力を身に付ける。
- ・自国が誇れる文化や特産物、豊かな自然など、自分が住んでいる国に対する関心を持ち、日本の良さを再認識する。
(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
5分	<p>🎓日本の良さを効果的にPRしよう!</p> <p>1. 効果的なPRをするためのポイントを再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ ・ジェスチャーやポーズ ・魅力的な視覚的材料 ・質問をはさむ 	<ul style="list-style-type: none"> ●人に何かを伝える時にどのようなことに気を付ければ良かったのかりマインドさせる。 ●他のグループの発表を聞く際に、聞き手側の雰囲気の話しての緊張を和らげることなどを伝え、あたたかい雰囲気になるよう働きかける。
40分	<p>2. グループごとに、日本各地のプレゼンテーションを行う。(各グループ4分×8グループ, 入れ替え1分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに前に出て、各地域について全員が話す。 ・スライドを見せながら、それに合わせた内容を 	

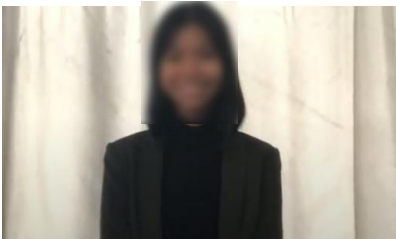
5分	<p>わかりやすく伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後に代表者が質疑応答を行う。  <p>3. どのグループの発表が1番魅力的だったかを決め、Formsで投票する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発表を聞いている間に、ワークシートにメモをとるよう促す。 ●ワークシートの観点別評価を参考に1位のグループを決め、Formsで投票するよう伝える。
----	---	---

3 実践の流れ

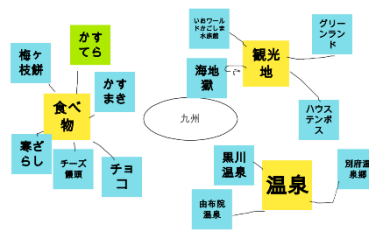
○課題の設定（1時間目）

ALTが冬休みに旅行を計画しているので、おすすめの場所はないかという話題を持ちかけている動画を見た。(写真1) それを受けて、何かをPRするにはどのような方法が効果的なのかをグループで考えた。教科書の参考動画を見て、PRする際に大切な要素をあげて、自分たちのグループがどのような発表形式をとるのかを決めた。

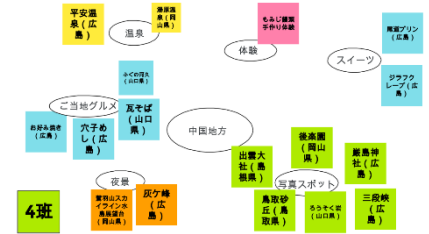
次に、担当する地域の観光地や体験活動、食べ物など、何を勧めれば良いかをALTの動画をもとに考え、クロムブックを使って調べたものをマッピングにした。(写真2, 3) 動画内では、食べ物を通して日本の文化を知りたいということ、冬ならではの観光がしたいということ、温泉に入りたいということの3つの要望があげられていた。



【写真1】



【写真2】



【写真3】

○情報の収集（2時間目）

詳しい情報収集の時間では、生徒たちはマッピングをもとに、さまざまなことを調べ、スプレッドシートで共有した。まずは、有名なものをピックアップして、みんなで共有し、どれをプレゼンするか決めやすくしている班(写真4)、簡単な情報とURLを載せ、あとで詳細な情報を調べやすいように工夫している班(写真5)などがあつた。スプレッドシートは他の班も見ることができるので、他のシートを見て、自分たちのシートを改善する作業も見られた。

	A	B	C	D	E	F
食べ物	永井	森	鶴木	角田		
観光地	USJ	金閣寺	あべのりりリス	東大寺	姫路城	
温泉	市川門湯温泉	市川湯温泉	少戸ヶ崎温泉	神戸淡路温泉	高砂温泉	
体験	忍者修行の屋	e-bikeツアー	八つ橋焼	友禅染		

【写真4】

また、ただ紹介するものを探すだけではなく、食べ物であれば、その作り方や材料、なぜそれが有名なのかということであったり、温泉であれば、効能や特徴であったりと、プレゼンがより魅力的になるような情報を追加している生徒もいた。プレゼンする相手は、日本人ではなく外国の方だということを意識し、外国人が興味を持つような視点は何かを考えるよう促した。

	A	B	C	D
1	資料 和食 和食の歴史	和食の由来 和食の歴史 (和食)	和食の歴史 和食の歴史	
2	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
3	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
4	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
5	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
6	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
7	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	
8	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	和食の歴史 (和食に入ったときの和食)	

【写真5】

○整理・分析 (3～5時間目)

調べた数ある情報の中から、どの内容をプレゼンするかを班で話し合った。スプレッドシートで他の班が何を調べているかを見て、発表内容が似通ったものにならないよう意識させた。また、発表形式をどのようにするかも決めた。インタビュアーとインタビューに答える人が一問一答のような形で発表をするインタビュー形式、スキットを作成し、地方について会話をしながら発表するスキット形式、1人1人の担当を決め、プレゼンを行うプレゼン形式の中から班で選択した。形式が決まったら、さらに情報を精査して、自分たちが発表する内容に合ったスライドを作成した。(写真6, 7, 8) 1人最低2枚のスライドを作成するよう指示した。



【写真6】



【写真7】



【写真8】

スライドの作成が終わったら、原稿作成にうつった。良いプレゼンと悪いプレゼンとは何かを考えさせるため、ALTに実際に自身の国のPR動画を作ってもらい、生徒たちに見せた。(写真9) そこで、アイコンタクトや声のボリューム、ジェスチャーや話す内容の言葉選びなど、表現方法について考えた。それをもとに、難しいワードや説明ばかりにならないように気を付けながら原稿を作成した。また、原稿は班内で読み合って、発表の仕方は適切かどうかを互いにチェックした。スライドに関しては、共有ドライブに全班分のスライドを作成し、共有できるようにした。生徒たちは他の班のスライドを見て、コメント機能を使って感想や改善点など書き込んだ。また教師も全班のスライドを見て、感想をコメントした。(写真10)



【写真9】



【写真10】

グループ内で1回、他のグループとペアを作りもう1回、合計2回くらい発表をさせ、それに対するフィードバックの時間がとれると、さらにブラッシュアップできる。

○まとめ・表現（6時間目）

生徒たちは、自分たちで作った原稿をもとに、各グループ4分間でプレゼンを行った。プレゼンをする前に、良いプレゼンに必要な要素を再確認し、それらを意識するよう伝えた。発表前に評価用紙を配付し、そこにわかったことや発表者の評価を3段階で表記するようにした。（写真11）

Our Project 自分の国をPRしよう！
 発表記録・評価用紙
 Class () No. () Name ()
 ★それぞれのグループの発表を3段階（3・2・1）で評価しよう！
 1. Group: _____ 地方: _____
 わかったこと _____

項目	内容	1人目	2人目	3人目	4人目
聞きやすさ	声の大きさ、話すスピード、わかりやすい単語				
見やすさ	スライドのレイアウト・文字の大きさ・効果				
伝え方の工夫	ジェスチャーや服装、表情の豊かさ				

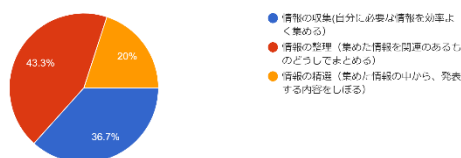
【写真11】

○振り返り・改善（7時間目）

発表内容はすべて録画し、後日ALTに見せ、評価・投票をしてもらった。6時間目の授業で投票結果を発表し、どの班が1番魅力的なプレゼンを行ったか確認した。その際、なぜ良いと思ったのかを意見交換した。また、全体のベストスピーカーも発表した。それによって、良いプレゼンに必要な要素は何なのかを再確認させた。

この単元で学んだことや、プレゼンまでの過程で大変だった作業や楽しかった作業などを個人で

情報活用するまでの過程で難しかった点はなんですか？
 30件の回答



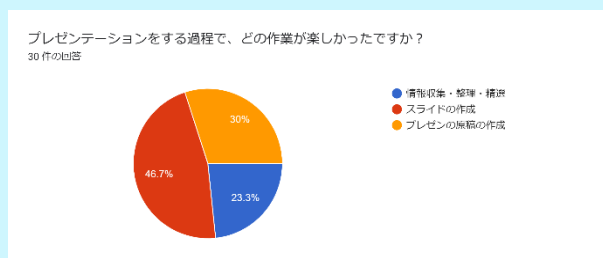
Forms に書き込んだ。

振り返りを行った後に、ALT や教員からの評価を可視化することで、自分の改善点などを明確に把握できる。スライドに残されたメモ機能をもとに、さらに自分のスライドを手直しすることも可能である。また、原稿はクロムブックでドキュメントを提出し、訂正された原稿を確認することで、これまで学んだ英文法を使って、別の表現もできるということを知識として得ることができる。

さらに、最終的に手直したプレゼン動画を再度個人で録音し、提出させることで深い学びにつながるることができる。

実践を終えて

<アンケート結果>



上記のアンケートによると、情報活用するまでに、生徒たちが1番難しいと感じた点は情報の整理であった。今の時代、情報を手に入れるのは容易である。膨大な情報の中から、適切な情報を取捨選択する力が必要であると感じた。実際、生徒たちも限られた時間の中で、様々なサイトを調べようとしたが、多くの生徒が特定のサイトからの情報のみに頼ってしまっていた。気になったサイトはお気に入り登録をし、様々なサイトを比較・検討して自分がプレゼンに取り入れる情報を選択するというやり方など、実践を重ねていく必要がある。

特に、情報の整理の段階で、指導を工夫しなければならないと感じた。スプレッドシートで情報を共有できるようにしたが、生徒たちが整理する時間が十分に取れなかったため、時数を増やすか、事前にスプレッドシートの使い方を十分に指導しておく必要があると思った。

また、獲得した情報をもとに作ったスライドや原稿を班内、もしくは他の班と共有し、アドバイスを送る時間を十分にとった方が良い。スライドのメモ機能を使って、感想を貼る作業をしっかりと確保したり、原稿は実際に班内だけでなく、他の班にもプレ発表して、わかりにくい個所をピックアップしたり、質問したりしてもらうことも、協働的な学びとなる。いかに、個人でやっている作業を、他の人とつなげさせて、深い学びにつなげていくかが鍵である。

<生徒の感想>

- ・スピーチが苦手な人もいるけど、スライドを使いながらわかりやすく説明できていてみんなの成長を感じました。
 - ・みんなが聞き取りやすいような言葉選び、文法はこれまでたくさん学んでいて、今までの学習はこれからの社会で生かされるんだなと思った。
- 先生（ALT）のようにジェスチャーを加えながら発表することがいかに大変か、すごくわかった。これからもみんなに伝わる発表や話し方を練習していきたい。
- ・改めてプレゼンを作るのは難しいと思いました。しかし1からの制作は楽しかったです。

ICTは自分の考えや伝えたいことを効果的に伝えるための1つのツールである。あくまで、伝え方（言葉選び、声のトーン、話すスピード、ジェスチャーなど）を魅力的にすることに重きを置いた上で、生徒たちには最大限ICTを活かしてほしい。生徒の感想にもあるように、ICTを利用するという経験を重ねることで、多くの成長が期待できる。生徒たちは、ICTを使うことに非常に前向きで、自分たちで様々なことをトライしていた。教員である私たち自身が、前向きに授業に取り入れることで、生徒たち自ら意欲的にトライ&エラーを繰り返し、学んでいくこともできるのだと新たな学びの形に触れられたように思う。